



株式会社ビジネス・ブレイクスルー(BBT)  
BUSINESS BREAKTHROUGH, INC.

# Newsletter Vol.5

2018/2/23発行

## CONTENTS

- |   |           |
|---|-----------|
| 1. BBT大学大学院修了生1,000人突破イベント レポート                     | ..... p.2 |
| 2. JTBコミュニケーションデザインとBBTが共同開発した<br>観光人材育成新プログラムがスタート | ..... p.4 |
| 3. BBTが日本ラグビーフットボール協会のオフィシャルパートナーに                  | ..... p.5 |
| 4. EXHIBITION 2017開催レポート @JCQ BILINGUAL PRESCHOOL   | ..... p.6 |

## 【BBTについて】

グローバル環境で活躍できる人材の育成を目的として1998年に世界的経営コンサルタント大前研一により設立された教育会社。設立当初から革新的な遠隔教育システムによる双方向性を確保した質の高い教育の提供を目指し、多様な配信メディアを通じてマネジメント教育プログラムを提供。大学、大学院、起業家養成プログラム、ビジネス英語や経営者のための勉強会等多様な教育プログラムを運営するほか、法人研修の提供やTV番組の制作など様々な顔を持つ。2013年10月のアオバジャパン・インターナショナルスクールへの経営参加を契機に、生涯の学習をサポートするプラットフォーム構築をグループ戦略の柱の1つとして明確に位置づけている。在籍会員数約1万人、輩出人数はのべ約5万人以上。

<http://www.bbt757.com/>

—本件に関するお問い合わせ先—  
株式会社ビジネス・ブレイクスルー PR担当 吉田  
TEL:03-6271-0757 FAX:03-3265-1381  
E-mail : bbt-pr@bbt757.com

## BBT大学大学院修了生1,000人突破partyが、6月に実施されました。 “BBTABC2017×大学院修了生1000人突破Party”

2017年6月17日、東京駅KITTE内、JP TOWER Hall&Conferenceにて、BBT大学大学院修了生の1,000人突破を祝うイベント“BBTABC2017×大学院修了生1000人突破Party”が開催されました。本イベントは、BBT大学大学院修了生による同窓会組織「BBTABC」が主催し、同大学院が後援したもので、当日は修了生をはじめ教授陣などが集結し、熱気あふれるイベントとなりました。「生き方革命」をテーマにした本イベントでは、多様なゲストがそれぞれの生き方を語りました。



### 【対談】女性MBAホルダーの「生き方」 出口恭子教授×吉村真理氏



日本におけるディズニーストアでの事業立ち上げや日本GEプラスチックのCFOなどを歴任し、BBT大学大学院の「コーポレートファイナンス」を担当されている出口教授と、ガルーダインドネシア航空、デザインル等でファイナンスを身に付けられたBBT大学大学院修了生吉村氏に女性とMBAというテーマで対談いただきました。

### 【起業家パネル】起業という「生き方」 込山洋一氏×中尾豊氏



出版事業等を手掛けるLight House、Takuyo Corpの社長を務める込山氏、医療と患者をつなぐサービスを提供する株式会社KAKEHASHIを立ち上げ代表取締役CEOを務める中尾氏、二人のBBT大学大学院修了生に起業時の苦労や努力、今のビジネスなどについてディスカッションいただきました。

### 【講演】BBT修了生としての「生き方」 角野信彦氏



幻冬舎での編集の仕事などを経て、マンガ新聞を立ち上げて約3年間代表取締役を務めた角野氏より「BBT修了生としての『生き方』」について講演いただきました。

僕たちが「生き方」を変えなければならない要因は3つ。一つは「思考錯誤のコストの劇的な低下」。例えば起業する場合でも、クラウドソーシングやクラウドファンディングなどにより、手軽にできるようになった。二つ目は「Endless Me」。手軽に、切れ目なく他人とつながり、ショップが自動でおすすめ商品を提示してくれるなど新しい世界に出会いにくくなっている。三つ目は脳機能の外部化。知識を脳に蓄積する必要がなくなった。

このような世界の中で提案したいのは、新しいことをどんどんやること。画期的なイノベーションはその分野に深い知識を持っていない若い人から生まれるのである。一步を踏み出し実践し続けてほしい。

## 【基調講演】「企業人、フロンティア経営者ならではの生き方」斉藤惇教授

欧米授業では経営上の倫理を主に扱っているため、倫理のベースについて、以下の問いをみなさんに投げかけたい。

「先般の、ウォーレン・バフェット氏と3Gキャピタルによるアメリカの食品大手クラフトとハインツの買収合併の結果、売上、営業利益が大幅に増加した。しかしその過程で1万4千人を解雇した。この行為で、社会全体は倫理的に報われたのだろうか。」

経営者はどのような倫理観を持って利益を配分していくべきか。これは非常に大きなテーマであるが、日本ではこういったことを真剣に議論する文化がない。この倫理的感覚こそがコーポレートガバナンス、シェアホルダーが主張する点であり、みなさんもよく考えてほしい。



経営層だけでなく全ての社員が自ら動くことにより上記の問題の解決の糸口が見つかるのではないだろうか。若者が能力を発揮するには自分で会社を起こすのが一番早い。それを実現するための気概を持つことが必要である。そして、少し先を見た経営を続けていくために、生涯学習し続ける覚悟を持ってほしい。

## 【BIC活動紹介】「起業という生き方を支援するBICの活動紹介」余語邦彦センター長



BICはBBT大学大学院、BBT大学、ボンドBBT-MBA、ABSの在校生修了生で起業を志す方を対象に起業支援をする組織である。

3つの柱があり、それぞれ1~2か月に一回程度の頻度で行っている。一つ目は実際に起業した人の話を聞く「リアル・サロン」。二つ目は起業相談の場「起業よろず相談会」、三つ目は事業プランを発表しブラッシュアップする場「ビジネス・モッシュ・ビット」だ。

その他に、ITを使ったガジェットなどのモノづくりを行う「スタートアップ・トライアル」、「ITスタートアッププロジェクト」や各種勉強会や企業見学ツアーなどの企画イベントが行われている。

AirCampus®のコミュニティやHPに加え、FBのBICグループも作っている。是非多くの人に参加してもらいたいと思っている。

## 【学長講演】「BBT大学大学院修了生に期待する「生き方」」大前研一学長

開学から12年、BBT大学大学院修了生はついに1,000人を突破し、2017年6月現在1,040人となっている。BBT大学大学院は2005年に千代田区のキャリア教育推進特区を利用して文部科学省の認可を受けて誕生した。

大学院は平均入学年齢が大体38歳くらい、40歳くらいで卒業する人が多い。大学は30歳あたりが平均入学年齢である。我々は、人生は気が付いた時にいつでも、いくらでもリセットできると考えている。そういう方がたくさんBBTで学んでいただいていることを非常にうれしく思っている。

私自身、やりたいことがまだたくさんある。その一つがバイクツアー。計画を立てる過程が一番楽しい。大学院で一番思い出に残っているのは、AirCampus®の最多発言者、第一期生は私だったということ。そのようにしてBBT、AirCampus®の文化を、学生のみならず一緒に育ててきた。それで、1,000人突破とは、非常にうれしい。感無量である。



BBTには、大学院はじめ大学、ボンドBBT-MBA、アタッカーズ・ビジネススクールなどを中心にリスクをとれる人が多く存在している。起業したり本を出版したりする在校生修了生も非常に多い。我々はこういった方々のサポートをしていきたいと考えている。みなさんにも、個人の目標をしっかり定めていただき、会社の仕事をちゃんとやるだけでなく、自分の人生を自分でデザインしてほしい。ルールに乗る必要はない。内なるやりたいという思いに向き合い、チャレンジしてほしい。みなさんにとっての最大のチャレンジは定年退職後の人生を自分の力で成立させることだ。自分の人生の社長として、自分の力で生き抜く力を付けてほしい。

## JTBコミュニケーションデザインと、ビジネス・ブレイクスルーが共同開発 次世代観光を創発する「Tourism Leaders School」が開講

BBTは、JTBグループの株式会社JTBコミュニケーションデザイン(東京都港区、代表取締役社長:細野顕宏、以下JTBコミュニケーションデザイン)と共同で、「地方創生・観光立国」推進の取り組みの一環として、人財育成プログラム『次世代観光を創発する「Tourism Leaders School」』(以下、「Tourism Leaders School」)を、2017年7月1日に開講いたしました。

### 年々増加する、訪日外国人旅行者数

右のグラフからもわかるように、2016年の訪日外国人人数は日本政府観光局(JNTO)が統計を取り始めてから過去最高の2,403万9千人に上りました。今後ますます増え続けることが予想される外国人旅行者のニーズの多様化に対応するために、2016年3月末に行われた安倍晋三総理を議長とする「明日の日本を支える観光ビジョン構想会議」の中で、政府は観光産業の人材育成を重要な柱のひとつとして位置づけました。しかし観光産業は、経営人財やリーダー層の不足という課題を抱えています。このような観光分野における人的課題を解決するために、観光人財育成に知見のあるJTBコミュニケーションデザインと20年近く経営マネジメントのオンライン教育の実績のあるBBTが共同で開発したオンラインスクールが「Tourism Leaders School」です。

訪日外国人旅行者数・出国日本人数の推移



### 「Tourism Leaders School」の観光経営プロフェッショナルに必須となる5つの重点分野

#### 1 観光経営(Tourism Management)

ロジカルマネジメント、構想力、0→1の発想力など、観光経営に必要な基礎スキルを習得します。

#### 2 観光マーケティング(Tourism Marketing)

観光マーケティングについて、戦略、デジタル、クリエイター、マスメディア、テクノロジーという5つの切り口で学びます。

#### 3 グローバル観光開発(Global Tourism)

世界の観光地・リゾートの現状を理解しつつ、事例研究を通じて観光地開発ノウハウを学びます。

#### 4 インバウンド観光開発(Inbound Tourism)

Airbnb、フリープラスなどの最新事例に基づいて、インバウンド観光のノウハウを学びます。

#### 5 リアルケーススタディ(Real Case Study)

観光に関するリアルなケースを取り上げ、2週間に1つのペースで取り組むことで、観光経営の実践スキルを磨きます。

### 「Tourism Leaders School」の総括

本講座は、観光経営プロフェッショナルを目指す実務家のためのオンラインプログラムです。観光経営の現場最前線で活躍する20名のエキスパートたちを講師に迎え、6ヶ月間にわたって、上記の5つの重点分野を集中的に学びます。明確なコンセプトに基づいた観光地づくりを実現するための戦略策定と実施機能を備えた「日本版DMO」や観光協会の関係者、観光関連企業のマネジメント層、地域の観光関連施設の次世代経営層、観光ビジネスへの転身を希望するビジネスパーソンなど、観光経営プロフェッショナルを目指す方々を主たる対象としています。

## BBT、日本ラグビーフットボール協会とオフィシャルパートナー協定締結。 グローバルに活躍できる人材の育成に向けた講座を提供します。

BBTは、2017年10月13日に公益財団法人日本ラグビーフットボール協会（所在地：東京都港区、会長：岡村正、以下JRFU）とオフィシャルパートナー協定を締結しました。トップリーグ16チームの監督やGeneral Manager（GM）をはじめ、ラグビー界をけん引する方々がオンラインで受講する仕組みを整え、一層グローバル化が進むラグビー界において、世界に通用するリーダーシップを発揮する人材の育成を支援いたします。調印式当日は、ジャパンラグビー トップリーグ チェアマンの高島 正之氏とBBT代表取締役副社長の柴田巖から今後のラグビー界の人材育成についての抱負が語られました。



2017年10月13日、（公財）日本ラグビーフットボール協会 ジャパンクラブで行われた調印式にて。

左から、太田治氏（ジャパンラグビー トップリーグ トップリーグ部 部長）、高島 正之氏（ジャパンラグビー トップリーグ チェアマン）、柴田巖（BBT 代表取締役副社長）、白崎雄吾（BBT大学 大学事業本部本部長）

JRFUは、『ジャパンラグビー トップリーグの企業スポーツとしての価値向上』、『スポーツ人材のビジネスリーダー育成』を目指しています。そこで、企業・個人における真のグローバルリーダーの育成をミッションとするBBTは、本協定の締結により、リーダーに必要不可欠な”スキル”と”マインド”を実践的に習得するプログラム「リーダーシップ・アクションプログラム(LAP)」や、スポーツビジネスの経営について包括的に学ぶ「スポーツビジネス実践講座(SAP)」等をJRFUに提供する運びとなりました。本協定を機に、スポーツ界の人材育成に向けた取り組みをさらに強化したいと考えています。

本協定に関する関係者のコメントは以下のとおり。

### ジャパンラグビー トップリーグ チェアマン 高島 正之氏

「企業スポーツのロールモデルとして、ポストラグビーの人生において新しい職業でも成功するための準備を行い、ラグビーだけでなく、ビジネスシーンにおいてもリーダーシップを発揮できる人材の育成に注力してまいります。」

### BBT 代表取締役副社長 柴田巖 氏

「2019年、日本でのワールドカップ開催という「世紀の年」を控える日本ラグビーフットボール協会様に対して、「グローバルに活躍する人材の育成」をミッションとする私どもが、その更なる躍進のお手伝いをする機会を頂いたことを、大変光栄に思います。」

## 展示テーマは「もったいない～かぎりあるしげん～」 「EXHIBITION 2017」開催レポート @JCQバイリンガル幼稚園

2017年12月8日、東京都晴海区民館にて、JCQバイリンガル幼稚園(以下JCQ)の子どもたちによる「EXHIBITION 2017」が開催されました。21世紀を担う子どもたちにとって必要な素養を多様なプログラムを通して提供しているJCQは、国際バカロレア(IB)の初等教育プログラム(PYP)の認定校です。3歳～12歳までを対象としており、精神と身体の両方を発達させることを重視しているプログラムであるPYPのカリキュラムは、国際教育の文脈において不可欠とされる人間の共通性に基づいた6つの教科横断的なテーマ(※)が中心となっています。

今回、そのうちの一つである「この地球を共有すること(Sharing the planet)」というテーマに対し、K5クラス(5～6歳)の子どもたちが数人のグループに分かれ、知恵を出し合って取り組みました。その成果をギャラリー形式で発表を行ったのが今回のイベント「EXHIBITION 2017」です。地球を皆で共有する為には、資源を有効に使うことと考えた子どもたちの展示テーマは、「もったいない～かぎりあるしげん～」になりました。

当日、各グループのブースでは子どもたち自ら展示物について時に英語を交えながら説明してくれました。通常の授業や活動もある中で2～3か月に渡りグループで話し合い、調べ、形にしてきたものは、子どもたちならではのアイデアがたくさん詰まっていた。



### 布をつなぎ合わせて作ったお手製のプールバック

少し遠くにあるプールに行くときにタオルなどを入れていたプールバックが破れてしまったことをきっかけに、資源を有効に使うことを考えたこのグループは、新しいバックを買うのではなく、皆で集めた布の切れ端を使って、クラス21人分のタオルが全て入る大きなバックを作りました。布をつなぎ合わせるためにボンドを使ったり針と糸で縫うことにもチャレンジしました。今ではこの布の切れ端から生まれたバックが、プールの授業の時になくてはならないものになったようです。

### 家庭でもゴミを減らす取り組みにチャレンジし、リサイクルに関するマークを収集

ゴミを増やさない為にできることは、授業内だけではありません。捨てる前にリサイクルできるものかどうかを考えることはとても大切な習慣だと考えた子どもたちは、家に帰った後も家族と協力し、あらゆるリサイクルに関するマークを探し出しました。

集めたマークは、切り貼りや絵で表現したりなどし、たくさんのリサイクルに関するマークがまとめられて展示されていました。展示されていたリサイクルマークには国内のものはもちろん、外国のマークもありました。



## ペットボトルのつぶし方

ペットボトルをそのまま捨てると、ゴミ袋がすぐにいっぱいになってしまいます。ゴミはなるべくコンパクトにしたほうが地球が綺麗になると考えたこのグループの子どもたちは、ペットボトルを小さくしてゴミ袋に入れる方法を日本語だけでなく英語でも説明していました。

ペットボトルを手でつぶすという方法のほかに掃除機で吸うという方法もあり、掃除機を使えば力のない人でも簡単につぶせてゴミを小さくすることができるという発見でした。

ペットボトルを一瞬で小さくできることを発見した子どもたちは、実際に掃除機でペットボトルを吸う実演もしていました。



## ゴミを分別するためのポスター作成

地球を守るうえで、ゴミの分別も資源の再利用や排出ガス削減のためにとっても大切なことと考えたこのグループの子どもたちは、身近にあるごみを燃えるもの・プラスチック・金属・ガラスなどごみの種類を絵や写真を用いて英語で分別したポスター作りに取り組みました。



## ペットボトルの空き箱を使ったオリジナルの滑り台

こちらのグループの子どもたちはたくさんあったペットボトルの空き箱を捨てるのではなく、何かに利用できないか考えました。そこで、空き箱を土台とし、段ボールの丈夫さを利用して皆で遊べる滑り台を作りました。また、滑り台の土台となる空き箱の中に空のペットボトルを入れ強度を高めるなどの工夫をしたことでさらに丈夫になりました。

展覧会を見学に来た年下のクラスの子もたちもこの滑り台で楽しそうに滑っていました。



## 先輩の展示を見学に来た年下のクラスの生徒たち

